

兵庫県植物防疫情報

平成 27 年度 No.4
平成 28 年 3 月 25 日発行

【目次】

<特集>

平成 28 年度版農作物病害虫・雑草防除指導指針の主な改正点 2

<試験研究情報>

平成 27 年度試験研究成果の速報

虫害・農薬		5
病害		6

<県植防情報>

植物防疫推進表彰 表彰式を開催 7

<連載>

「植物防疫基礎講座」(第 4 回) ー野菜のアブラムシ類ー
兵庫県植物防疫協会技術顧問 河野 哲 8

<別冊折込> 登録が失効した農薬の一覧(27.11-28.1) 137

ー田畑の草草ー 蕨・蕺火(ワラビ)と薇・銭巻(ゼンマイ)

コバノイシカグマ科ワラビ属の夏緑性の多年生シダ植物。茎は地下を這いよく伸びる。葉は成長すると 1m くらいにまで大きくなる。多様な型を持つ 1 種が世界中に分布し、日本にはそのうちの 1 変種が分布する。春に新芽を出し、これを摘んで灰汁抜きし食用とする。地下茎を叩きほぐして抽出したデンプンから作られた菓子がわらび餅である。

一方のゼンマイは、ゼンマイ科ゼンマイ属の夏緑生の多年生シダ植物。日本には 5 種が分布する。ゼンマイには栄養葉と孢子葉があるが、ワラビにはない。孢子葉は栄養葉が展開して成葉になったところに出てくるが、出てきた孢子囊は茶色～茶褐色で、『赤い』孢子囊を『火』と見立てた『蕺火』の名はゼンマイの方がふさわしい。成葉は、ゼンマイでは 2 回羽状複葉であるが、ワラビでは 3 回羽状、基部では 4 回羽状複葉となる。

蕨も薇も万葉の時代から日本で知られる。万葉集に志貴皇子の『春の權(よろこび)』を歌った歌がある。

石走る垂水の上のさ蕨の萌え出づる春になりにけるかも(巻 8)

岩を流れる滝の上ではもう蕨が芽を出す春になったのだなあという歌であるが、ちょっと待ってほしい。志貴皇子は本当に岩場の滝の上に蕨を見たのであろうか。そもそもワラビは草原や原野、火入れや植林などで攪乱されたような日当たりのいい場所を好み、森や林の中の岩場や、滝の上などの水辺には群生しない。水辺で群生するのはゼンマイの方である。

水辺を好むゼンマイであるが、溪流の側まで生息域を広げることは少ない。溪流のすぐ側まで広がって芽を出してくるのは、ゼンマイ属の中でも日本固有種であるヤシャゼンマイの方である。そう考えた方がこの歌の説明が付きやすい。志貴皇子は、早春に芽を出したヤシャゼンマイを『蕨』と歌ったのではなかろうか。

ゼンマイの和名は『本草書』にもみられるというが、ゼンマイを歌った歌を浅学な筆者は知らない。ご存知の方がおられたらご教示願いたい。

(赤松 幸)

平成28年度版農作物病虫害・雑草防除指導指針の主な改正点

兵庫県は、平成25年度から農作物病虫害・雑草防除指導指針の冊子の発行に替え、インターネットを活用した「兵庫県農薬情報システム」

(URL : <http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>) を運用しています。

このシステムでは、従来の冊子の「◎」印の薬剤に「指針採用」と記載し、各薬剤の適用情報において該当する作物・病虫害の「兵庫県基準」欄に「◎」印を記載しています。

また、従来の冊子では、各作物の病虫害別に耕種的対策等を記載していましたが、別途電子データにまとめて「兵庫県農薬情報システム」に掲載します。

以下に殺菌剤、殺虫剤の順で、追加・削除した主な薬剤を記載します。

なお、除草剤は薬剤の選定が困難であるためいずれの除草剤も「指針採用」、「◎」印は付けていません。

また、成分と適用条件が同一で複数の商品がある場合等は、種類名で記載しています。

【殺菌剤】

作物名	対象病虫害等	改正内容	
稲(箱育苗)	ごま葉枯病(穂枯れ)	薬剤追加	Dr.オリゼ箱粒剤、Dr.オリゼプリンス粒剤10、イソチアニル粒剤
稲(箱育苗)	内穎褐変病	薬剤追加	Dr.オリゼプリンス粒剤10、Dr.オリゼフェルテラ粒剤、イソチアニル粒剤
稲(箱育苗)	紋枯病	薬剤追加	ペンフルフェン粒剤
稲	いもち病	薬剤追加	は種時(播種同時施薬機を用いて土中施用する) スタウトダントツ箱粒剤、スタウトダントツディアナ箱粒剤
トマト	すすかび病	薬剤追加	シグナムWDG
ピーマン	炭疽病	薬剤追加	シグナムWDG
キャベツ	菌核病	薬剤追加	ミニタンWG
キャベツを除く野菜類	菌核病	薬剤追加	ミニタンWG
かんきつ	灰色かび病、そうか病	薬剤追加	ペンチオピラド剤
きく	褐斑病 黒斑病	薬剤追加	ストロビーフロアブル
ゆり	灰色かび病	薬剤追加	アフエツフロアブル
プリムラ	灰色かび病	薬剤追加	トップジンMゾル

【殺虫剤】

作物名	対象病虫害等	改正内容	
稲	スクミリンゴガイ	薬剤追加	ジャンボたにしくん
稲	スクミリンゴガイ	薬剤削除	キタジンP
大豆	ハスモンヨトウ	薬剤追加	トルネードエースDF
こまつな	アブラムシ類	薬剤追加	ダントツ水溶剤

作物名	対象病虫害等	改正内容	
はくさい	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、アオムシ	薬剤削除	オルトラン水和剤
はくさい	ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、アブラムシ類	薬剤追加	ベリマークSC
はくさい	ハイマダラノメイガ、アブラムシ類	薬剤追加	プリロッソ粒剤
キャベツ	アオムシ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ	薬剤追加	ベリマークSC
キャベツ	アオムシ、ハイマダラノメイガ、ネギアザミウマ	薬剤追加	プリロッソ粒剤
ブロッコリー	ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ	薬剤追加	ディアナSC
ブロッコリー	アオムシ、アブラムシ類	薬剤追加	ベリマークSC
ねぎ	ネギアザミウマ	薬剤追加	ベリマークSC
たまねぎ	ネギアザミウマ、ハスモンヨトウ	薬剤追加	ディアナSC
レタス	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ナモグリバエ	薬剤追加	ベリマークSC
レタス	オオタバコガ、ナモグリバエ	薬剤追加	プリロッソ粒剤
にら	ネダニ	薬剤追加	トクチオン乳剤
しゅんぎく	アブラムシ類、ハモグリバエ類	薬剤追加	アクタラ顆粒水溶剤、アクタラ粒剤5
セルリー	マメハモグリバエ	対象害虫変更	ハモグリバエ類(マメハモグリバエ、ナモグリバエ等)
セルリー	ハモグリバエ類	薬剤追加	ダントツ水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤、モスピラン粒剤
みつば	アブラムシ類	薬剤追加	トレボン乳剤、ダントツ水溶剤
ほうれんそう	コナダニ類	薬剤追加	エルサン乳剤
なす	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類	薬剤追加	ベリマーク SC、プリロッソ粒剤
なす	ネキリムシ類	薬剤追加	プレバソンフロアブル5
なす	ミナミキイロアザミウマ	薬剤追加	スワルスキー(天敵)
トマト、ミニトマト	コナジラミ類	薬剤削除	サンマイトフロアブル
トマト	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類	薬剤追加	プリロッソ粒剤
トマト	アブラムシ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類	薬剤追加	ベリマーク SC
トマト、ミニトマト	トマトサビダニ	薬剤追加	ダニトロンフロアブル
トマト、ミニトマト	トマトサビダニ	薬剤削除	ハチハチ乳剤
ピーマン	アブラムシ類	薬剤追加	プリロッソ粒剤
きゅうり	コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ	薬剤追加	プリロッソ粒剤
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ	薬剤追加	ベリマーク SC
きゅうり	コナジラミ類	薬剤追加	ディアナ SC

作物名	対象病虫害等	改正内容	
オクラ	アブラムシ類	薬剤追加	コルト顆粒水和剤
さやえんどう	ナモグリバエ	薬剤追加	プレバソンフロアブル5
すいか	アブラムシ類	薬剤追加	ベリマーク SC
すいか	アブラムシ類	薬剤削除	オリオン水和剤 40
メロン	コナジラミ類	薬剤追加	ディアナ SC、ベリマーク SC
だいこん	カブラハバチ	薬剤追加	トルネードエース DF
だいこん	アオムシ、アブラムシ類	薬剤追加	プリロツソ粒剤
かぶ	コナガ	薬剤追加	アニキ乳剤
かぶ	アブラムシ類	薬剤追加	アクタラ顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤
かんきつ	コアオハナムグリ	薬剤削除	オリオン水和剤 40
ぶどう	ハマキムシ類	薬剤削除	オリオン水和剤 40
なし	ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類	薬剤追加	サムコルフロアブル 10
びわ	アブラムシ類	薬剤追加	ダントツ水溶剤
うめ	オビカレハ	薬剤追加	サムコルフロアブル 10
りんご	ハマキムシ類	薬剤追加	サムコルフロアブル 10
りんご	ナシヒメシンクイ	薬剤削除	ラービフロアブル
かき	イラガ類	薬剤追加	サムコルフロアブル 10
かき	イラガ類	薬剤削除	ラービフロアブル
キウイフルーツ	クワシロカイガラムシ	薬剤追加	コルト顆粒水和剤
ブルーベリー	イラガ類	薬剤追加	コテツフロアブル
茶	チャノコカクモンハマキ	薬剤追加	エクシレルSE
茶	カンザワハダニ	薬剤追加	ダニコングフロアブル
チューリップ	アブラムシ類	薬剤追加	ハチハチフロアブル
チューリップ	チューリップサビダニ	薬剤追加	モベントフロアブル
りんどう	アザミウマ類	薬剤追加	ディアナ SC

(兵庫県立農林水産技術総合センター企画調整・経営支援部 専門技術員 福井謙一郎)

平成27年度の主な研究成果を紹介します。

1. 稲・麦二毛作地域におけるイネ縞葉枯病総合防除(H27―29)

イネ縞葉枯ウイルスを保毒、媒介するヒメトビウンカの生態及び縞葉枯病の感染生態を明らかにするため、水田におけるヒメトビウンカ密度、保毒虫率、発病程度の関係について解析した。縞葉枯病は水田へ侵入するヒメトビウンカ第1世代の次世代にあたる第2世代の発生量が多いほど発病が多くなること、秋季の保毒虫率が高いほど翌春の保毒虫率が高くなる傾向がみられることを明らかにした。

2. 紫外線を用いたイチゴのハダニ類密度抑制技術の開発(H26―28)

施設イチゴにおいて紫外線(UV-B)照射による難防除害虫ナミハダニの密度抑制効果を検証した。低コストの電球形UV-B蛍光灯と光反射シート(タイベック)を組合せた試験区では、約6ヶ月にわたりハダニ類密度を低く維持することができ、UV-B照射により、うどんこ病とハダニ類の同時防除が可能であった。さらに、アザミウマ類による被害も軽減した。今後は、UV-B照射量を変えた試験を実施し、防除効果とコスト、収量等を比較することで最適な使用条件を明らかにし、さらには高設栽培における効果実証を行う。

3. 交信攪乱剤によるナシのシンクイムシ防除(H27)

神戸市のナシ園で多発しているナシヒメシンクイに対し、被害果率が50%以上の多発生ほ場、約1.5haを対象に、2015年5月下旬にコンフューザーNを150本/10a、7月下旬にナシヒメコンを50本/10aを設置した。その結果、設置区のフェロモン誘引数は無処理比で1.9%となり、高い交信攪乱効果が認められた。最終的な被害果率は設置区で0.9%(1519果調査)、出荷数も昨年度の1.5倍となり、高い防除効果が認められた。交信攪乱剤はほ場全体及び周辺の害虫密度を下げるのに2～3年を要するため、次年度以降も生産現場では継続して設置し、効果を確認していく予定である。

4. 徒歩1分、事務所前のフェロモントラップでハスモンヨトウの発生予察(H27)

「総合防除のためのハスモンヨトウ発生予測支援技術の開発」(平成24～26年度)で取り組んでいた結果をもとに、ハスモンヨトウの発生予察におけるフェロモントラップの省力的で精度の高い利用方法について今年度から上記のようなタイトルでパネル、研修会、成果情報等で紹介している。ビル屋上や駐車場等の身近な場所に設置したフェロモントラップでも明瞭な発生消長が得られ、発生予察データとして利用可能なこと、及び次世代発生時期予測では有効積算温度シミュレーションに用いる気温データをプラスに補正することで予測精度が高くなることを明らかにしている。

5. 露地野菜における残留農薬の非破壊による簡易分析データの集積(H26～)

現在、レタス及びキャベツにおいてFT-IRを用いた農薬の簡易分析技術の開発を行なっている。結球野菜を拭き取って農薬量を調べるためには拭き取る位置が重要となる。そこで結球部の部位毎の農薬付着量を調査するため、スズラン噴口で農薬を通常散布した後風乾し、レタス及びキャベツをほ場からランダムに5個採取した。そして表面を約30カ所に分けて農薬濃度を調べた。その結果、キャベツ結球部は上部1/3の部分に95%程度の農薬が付着しており、レタスは上半分に約90%が付着していた。また、レタスでは結球部に最も近い外葉裏に付着した農薬濃度が結球部の濃度との相関が比較的高かった。今後、さらに知見を収集すると共に、農薬の簡易分析への応用を検討する予定である。

(兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター病害虫部 二井・八瀬・望月・田中・柳澤)

平成 27 年度の主な研究成果を下記のとおり紹介します。

1. ピーマン炭疽病防除システムの開発(H25～27)

アメダス（豊岡・香住・和田山・福知山：気温、降水量及び降水時間）または栽培支援装置「クロップナビ」のデータ（気温、濡れ時間）から、炭疽病菌の感染リスクが表示される予測システムを民間企業と協力して開発した。H26～27 年の 2 年間にわたり、感染リスクと炭疽病発病の関係を調査した結果、感染リスクが高まった約 7 日後にピーマン果実に炭疽病の病徴が現れることが確認された。また、収穫後のピーマンに炭疽病菌を接種した実験では、 $30 \mu\text{W}/\text{cm}^2$ で 8 時間紫外光を照射して出荷用防曇袋に入れると、対照に比べて発病が 6 分の 1 に抑えられた。

2. 連作ほ場における土壌データの蓄積(H25～27)

レタスビッグベイン病では耐病性品種栽培後に比べ、罹病性品種栽培後の土壌ウイルス濃度が高い傾向があることを明らかにした。菌核病については、水稻移植初期における田面水でのすくい取りによる土壌菌核採取法を新たに開発した。また、水稻収穫後に圃場縁縁の土壌を塩水選することにより、生き残った菌核が採取できることを明らかにした。レタスビッグベイン病とレタス菌核病について、既往の研究成果と 3 年間の現地調査の結果をまとめ、共同研究機関と指導者向けの圃場診断マニュアルを作成した。

3. 微生物農薬の病害虫防除効果の検定(H26～28)

従来殺虫剤であったペキロマイセス テヌイペス乳剤をトマトの青枯病やうどんこ病の防除に応用する試験を実施した。特に青枯病に対しては、かん注処理を行うと少発生圃場の条件ではあるが、防除価が 70 程度となり、非常に高い防除効果が得られ、実用性のある結果となった。

4. 紫外光照射によるトマト等の空気伝染性病害防除技術の確立(H26～27)

冬作トマトについて、UV-B 電球形蛍光灯と改良型反射傘を用いて温室内に設置し、上方から夜間 3 時間照射すると、ハウス桃太郎、中玉系のレッドオーレとも同様にうどんこ病の発生が強く抑えられた（中発生下で防除価 90 以上）。また、レッドオーレでは紫外光照射によって果実の糖度が高まる傾向にあった。

5. QoI 剤耐性菌に対応したイネいもち病に対する IPM 技術の検証(H26～28)

プロベナゾール剤とイソチアニル剤の播種時及び移植時処理のいもち病に対する防除効果について検討した。プロベナゾール剤の移植時処理、イソチアニルの播種時及び移植時処理は移植後 60～70 日後頃まで高い防除効果が得られた。プロベナゾールの播種時処理は移植後 45 日後頃（播種後 73 日後頃）から防除効果が低下する傾向を示した。

6. 新規 pH 降下型肥料を核としたレタスビッグベイン病の防除対策(H26～28)

慣行肥料をベースに、本病の感染時期である定植直後に pH が低下するように窒素成分などの組成・溶出速度を改良した 10 種類の肥料を用いて圃場試験を行ったところ、「2015-10」が最も効果が高く、少発生条件ながら慣行区の半分に以下に発病を抑制した。夏季の休耕期間を利用した土壌中のウイルス濃度抑制技術では、カラシナ栽培、すき込み区の濃度が最も低下した。殺菌剤の簡易処理技術では、アシベンゾラル S メチル剤のセルトレイへの定植直前散布が、防除価 87 と効果が高かった。本研究の一部は、総合科学技術・イノベーション会議の SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「次世代農林水産業創造技術」（管理人：農研機構生物系特定産業技術研究支援センター）の支援を受けて行った。

兵庫県知事賞は農事組合法人ファームくだわ(朝来市)が受賞

－平成27年度 植物防疫推進表彰式開催－

平成28年3月11日（金）、兵庫県農業共済会館において「平成27年度植物防疫推進表彰式」を、山内農林水産局長をはじめとする県関係者を来賓に迎え、本協会会員並びに賛助会員等に参集いただき開催しました。

昭和41年から農作物病虫害防除技術等に優れた団体等を表彰してきましたが、平成6年度から「植物防疫推進表彰」として病虫害の発生予察、農薬の安全使用、防除技術の向上に貢献した優秀な団体等を表彰しています。

また、当日は県知事賞受賞団体の農事組合法人ファームくだわ 代表者の清田正巳氏による事例発表も行われました。

平成27年度の被表彰者は、次のとおりです。

兵庫県知事賞	団体の部 朝 来 市 農事組合法人ファームくだわ
--------	--------------------------

兵庫県植物防疫協会長賞	個人の部 養 父 市 梅 津 隆 行
	個人の部 南あわじ市 濱 口 晴 一



山内農林水産局長より県知事賞を授与



【兵庫県知事賞】
農事組合法人ファームくだわの皆様



【兵庫県植物防疫協会長賞】
梅 津 隆 行 様



【兵庫県植物防疫協会長賞】
濱 口 晴 一 様

植物防疫基礎講座（第 4 回） ー野菜のアブラムシ類ー

河野 哲

アブラムシ類は野菜、果樹、花等の最も重要な害虫と見なされています。今回は、作付面積の多い、代表的な野菜のアブラムシ類について述べることにします。

野菜につくアブラムシ類の種類と被害

アブラムシ類は実に様々な植物の若い葉に群がって寄生、吸汁し、葉を黄変、萎縮させ、植物の生育を抑制したり、各種ウイルスを伝搬し、モザイク病などをおこします。虫自体は小さく弱い体質ですが、増殖率が極めて旺盛であることが、重要害虫となる要因です。野菜では、モモアカアブラムシとワタアブラムシ(写真)が代表的な種であり、前者はアブラナ科、ナス科野菜のほかレタス、キュウリ、ホウレンソウ等に、後者はナス科野菜、キュウリ、イチゴなどに寄生し、加害します。ニセダイコンアブラムシ、ダイコンアブラムシはアブラナ科野菜を加害し、前者は秋季に、後者は春季に発生が多くなります。タイワンヒゲナガアブラムシはレタス、ジャガイモヒゲナガアブラムシ(写真)はジャガイモ等を、イチゴクギケアブラムシ、イチゴネアブラムシはイチゴを加害します(表 1)。アブラムシ類によって伝搬されるウイルスはアブラナ科のカブモザイクウイルス (TuMV)、ナス科、ウリ科、レタス、ホウレンソウのキュウリモザイクウイルス (CMV) が代表的です(表 1)。

表 1 野菜を加害する主なアブラムシ類と伝搬される病原ウイルス

科	作物	主なアブラムシ類	病原ウイルス
アブラナ	ハクサイ キャベツ ダイコン	モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ	カブモザイクウイルス (TuMV) TuMV
キク	レタス	タイワンヒゲナガアブラムシ、モモアカアブラムシ	レタスモザイクウイルス (LMV)、キュウリモザイクウイルス (CMV)
ナス	ナス トマト ピーマン ジャガイモ	モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ	CMV CMV CMV、トマトモザイクウイルス (TMV) ジャガイモ Y ウイルス (PVY)、ジャガイモ X ウイルス (PVX)
ウリ	キュウリ	モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ	CMV
バラ	イチゴ	ワタアブラムシ、イチゴクギケアブラムシ、イチゴネアブラムシ	イチゴモットルウイルス (SMoV)、イチゴマイルドイエローエッジウイルス (SMYEV)
ヒユ	ホウレンソウ	モモアカアブラムシ	TuMV、CMV

生活環

アブラムシ類は植物体の若い組織を吸汁し、多くは葉裏に生息します。代表的な生活環を以下に示します。春から秋にかけては胎生雌のみの単性世代を送り、秋季になると有翅胎生雌が現れ、夏寄生植物から冬寄主植物へ移住飛行します。晩秋には、産生雌から産まれた雄と卵生雌が出現して交尾が行われ(両性世代)、受精卵が寄主植物上に生み付けられ、卵で越冬します。越冬卵は春季に孵化して幼虫が出現して幹母と呼ばれる 1 世代目の無翅胎生雌になります。幹母の産子する 2 世代目雌成虫が有翅になり移動します。このように、一年に両性、単性の両世代を経過する生活様式を完全生活環と呼び、一方、単性世代の胎生雌のみで一年を経過するのを不完全生活環と呼びます。施設などでは後者の生活様式が多く、冬でも増殖するので、翌春

の多発要因となります。

防除対策

主要な野菜類のアブラムシ類に対する主な防除薬剤を表 2 に示しました。ネオニコチノイド系薬剤は長期残効性があり、ナス、ピーマン、キュウリなど多くの野菜に登録があります。このほか有機リン系、カーバメート系、ピレスロイド系、摂食阻害剤等があります。ここに示した薬剤のほかにも多くの登録薬剤がありますので、最新の詳細は「兵庫県農薬情報システム」で確認して下さい。

アブラムシ類は繁殖力が大きく、短期間で密度が急増しますので、早期発見に努め、低密度のうちに防除します。播種時や定植時の撒き溝や植穴の薬剤処理は、出芽や定植後に飛来してくるアブラムシの初期密度を抑制する効率的な防除法です。

農薬使用に当たっては、同一薬剤あるいは同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布により、抵抗性発達の回避ないし遅延に努めます。

耕種的防除として、ナス、トマト、ピーマン等では定植時に光反射マルチを行います。これによって、アブラムシは下方から光を受けることになるので嫌がって圃場への侵入が抑制されます。植物体がマルチを覆い始めると効果が次第に低下するので、生育初期～中期の対策に有効です。

表 2 主要な野菜類のアブラムシ類に対する主な防除薬剤

系統	種類名	ハクサイ	キャベツ	ダイコン	レタス	ナス	トマト	ピーマン	ジャガイモ	キュウリ	イチゴ	ホウレンソウ
ネオニコチノイド	イミダクロプリド粒剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イミダクロプリド水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ジノテフラン粒剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ジノテフラン水溶剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アセタミプリド粒剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アセタミプリド水溶剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	クロチアニジン水溶剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ニテンピラム粒剤					○	○	○		○	○	
	ニテンピラム水溶剤			○	○	○	○	○	○	○	○	
	チアメトキサム粒剤	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	チアメトキサム水溶剤	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
有機リン	アセフェート粒剤	○	○	○		○	○	○	○	○		
	アセフェート水和剤	○	○		○				○			
カーバメート	カルボスルフアン粒剤							○				
ピレスロイド	エトフェンプロックス乳剤	○	○	○	○	○		○	○	○		
	シペルメトリン水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	シペルメトリン乳剤				○	○	○	○		○	○	○
摂食阻害剤	フロニカミド水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ピメロジン粒剤					○	○	○		○		
	ピメロジン水和剤					○	○	○	○	○	○	

○登録有(商品によって登録内容が異なる場合がありますのでラベルを確認して下さい)

平成 28 年 3 月 25 日現在



モモアカアブラムシ



リタアブラムシ



ジャガイモヒゲナカアブラムシ

(兵庫県植物防疫協会 技術顧問)

「農薬名称読替一覧〈第4版〉」の販売

平成27年2月に兵庫県植物防疫協会では、「農薬名称読替一覧〈第4版〉」を刊行しました。

農薬には「種類名」と「商品名」があり、専門家ですら困惑することが多々あります。これは、同じ農薬でも書籍、試験成績書、マスコミなどで公表される場合は「種類名」が使われ、広く販売されている農薬にはなじみのある「商品名」が使われているためです。そこで、そのような煩わしさを解消するために、農薬の名称が相互に即座に読み取れる農

薬名称読替一覧を発行して関係者の皆様にご好評を頂いているところです。第4版では、第3版の発刊から3年が経過し、その間に多くの薬剤が新規に登録されましたので、新たにのべ500余りの農薬を追加しました。

なお、登録が失効した農薬もありますが、読替一覧という性格上、一部、失効農薬も載せています。

本書は、「種類名 → 商品名 → 一般名」と「商品名 → 種類名」の2部構成となっています。例えば、殺虫剤の種類名「ジノテフラン」を引けば商品名「スタークル」などが出てきます。逆に、商品名で「スタークル」を引けば種類名は「ジノテフラン」であることがわかります。

生産者、指導者、研究者をはじめ農薬を扱う関係者の必携の1冊としてご活用願います。

A6版 本文195頁、本体価格850円(税込み)、送料実費。

**農薬名称読替一覧
〈第4版〉**

平成26年9月末現在

兵庫県植物防疫協会

【お問合せ・申込先】

兵庫県植物防疫協会事務局

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目15-3

兵庫県農業共済会館内

TEL 078-332-7144 FAX 078-332-7152

メール hyogo-syokubo@mountain.ocn.ne.jp

【編集後記】

平成 27 年度No.4 をお届けします。

今年度の植物防疫情報の発行は本号が最終号となります。

ご愛読いただいております皆さま、また、ご多忙の中、日ごろの研究成果や事業の推移などの情報をご寄稿いただいた関係各所のご愛顧、ご尽力のおかげで今年 1 年間発行することができましたことに深く感謝申し上げます。

今年は、5 月に三重県伊勢志摩で主要国首脳会議 G7 サミット開催、夏の参議院選挙（衆議院選挙と同日!?!）、8 月のリオデジャネイロオリンピック開催、11 月にアメリカ第 45 代大統領が決定とビッグイベントが相次いで行われ注目されるところです。

一方、桜の開花がはじまるこの季節は、人の動きが活発な時期でもあり、兵庫県植物防疫協会でも人事異動がありました。次年度も新体制のもと皆さま方には尚一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(N)

兵庫県植物防疫協会 今後の予定

H28 年

4 月 15 日 H28 年度新農薬等展示ほ設置打合せ会（神戸市）

5 月 監事会（中旬）・運営委員会（下旬）

6 月 通常総会（上旬）・虫供養（上旬）

発 行 元

兵庫県植物防疫協会

神戸市中央区下山手通 4-15-3

TEL 078-332-7144

FAX 078-332-7152

Mail hyogo-syokubo@mountain.ocn.ne.jp

登録が失効した農薬の一覧

日本植物防疫協会「植物防疫」より兵庫県植物防疫協会再編集

(平成 27 年 1 月 1 日～平成 28 年 1 月 31 日)

区分	失効年月日	登録No.	失効農薬名・商品名	種類名	登録メーカ
殺虫剤	11 月 01 日 11 月 26 日	2345 15290	日産 EPN 粉剤 1.5 ヤシマハッサ粉剤 30DL	EPN 粉剤 BPMC 粉剤	日産化学 協友アグリ
殺菌剤	11 月 06 日 11 月 01 日 11 月 01 日 11 月 01 日 11 月 21 日 11 月 26 日	16217 17950 17953 17961 18827 20049	バシタックハーフラン粉剤 DL サンケイブーラシン粉剤 DL サンケイブーラシンハバリタ粉剤 DL ヤシマテリーナ水和剤 ヤシマベルコート水和剤 グレートム 1 キロ粒剤	イミノタジン酢酸塩・メフロニル粉剤 フェリムゾン・フサライト粉剤 バリタマイシン・フェリムゾン・フサライト粉剤 オキソリニック酸・ストレプトマイシン水和剤 イミノタジナルベシル酸塩水和剤 チフルサミト粒剤	クマイ化学 サンケイ化学 サンケイ化学 協友アグリ 協友アグリ 日産化学
除草剤	11 月 19 日 11 月 26 日 11 月 26 日	21114 21121 21124	バリエルダフルスター SB 顆粒 イノーバ DX1 キロ粒剤 51 イノーバ DX1 キロ粒剤 75	ヒラゾスルフロニエチル・フェントラサミト・ベンゾ ビシクロン水和剤 タムロン・フェントラサミト・ブプロモブチド・ ベンスルフロニメチル粒剤 フェントラサミト・ブプロモブチド・ベンスルフロ ニメチル粒剤	バリエルクロップサ イエンス デューボン デューボン
殺虫剤	12 月 26 日	18878	検疫専用ブロムメチル	検疫用臭化メチルくん蒸剤	日宝化学
殺菌剤	12 月 11 日 12 月 11 日 12 月 16 日 12 月 26 日 12 月 22 日 12 月 22 日	14218 14220 18018 18875 19833 19834	ヤシマフジラン粒剤 ヤシマフジラン乳剤 サンケイブーラシン水和剤 ビームモンセレン粉剤 DL ウインフロアブル ウイン箱粒剤	イソプロチオラン粒剤 イソプロチオラン乳剤 フェリムゾン・フサライト水和剤 トリシクラゾール・ベンシクロン粉剤 カルプロハミト水和剤 カルプロハミト粒剤	協友アグリ 協友アグリ サンケイ化学 クマイ化学 バリエルクロップサ イエンス バリエルクロップサ イエンス
殺虫殺菌剤	12 月 01 日 12 月 22 日 12 月 16 日	17143 19836 22546	明治オセメートアドバンテージ 粒剤 ウインアドマイヤー箱粒剤 アブライスタークル粒剤	カルボスルファン・ブプロナゾール粒剤 イミダクロプリト・カルプロハミト粒剤 ジノテフラン・チアジニル粒剤	MeijiSeika フ アルマ バリエルクロップサ イエンス 三井化学アグ ロ
除草剤	12 月 22 日 12 月 22 日 12 月 04 日 12 月 05 日 12 月 21 日	19857 19860 20489 20505 20512	科研サ・ランフロアブル 科研サ・ラン 1 キロ粒剤 サットフル L フロアブル サンアタック水和剤 ビックグシュア 1 キロ粒剤	イマゾスルフロニ・タムロン・ペントキサゾン水 和剤 イマゾスルフロニ・タムロン・ペントキサゾン粒 剤 オキサジクロメホン・タムロン・ヒリミノハックメ チル・ベンスルフロニメチル水和剤 エトキシスルフロニ・カフェンストロール水和剤 シクロスルファミロン・タムロン・フェントラサミト粒 剤	科研製薬 科研製薬 クマイ化学 三井化学アグ ロ バリエルクロップサ イエンス

区分	失効年月日	登録No.	失効農薬名・商品名	種 類 名	登録メ-カ-
除草 剤	12 月 21 日	20514	バ イェルイノーバ 1 キロ粒剤 51	タ イムロン・フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル 粒剤	バ イェルクロップ ーサ イエンス
	12 月 21 日	20515	イノーバ 1 キロ粒剤 51	タ イムロン・フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル 粒剤	デ ュボ ン
	12 月 21 日	20516	クミアイノーバ 1 キロ粒剤 51	タ イムロン・フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル 粒剤	クミアイ化学
	12 月 21 日	20517	バ イェルト ーニチ 1 キロ粒剤	イマゾ ースルフロン・タ イムロン・フェントラサ ミト ー粒 剤	バ イェルクロップ ーサ イエンス
	12 月 21 日	20519	SDS ト ーニチ 1 キロ粒剤	イマゾ ースルフロン・タ イムロン・フェントラサ ミト ー粒 剤	エス・テ ーイー・エス ハ ーオテック
	12 月 21 日	20521	バ イェルイノーバ 1 キロ粒剤 75	フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル粒剤	バ イェルクロップ ーサ イエンス
	12 月 21 日	20522	イノーバ 1 キロ粒剤 75	フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル粒剤	デ ュボ ン
	12 月 26 日	20537	バ イェルイノーバフロアブル	フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル水和剤	バ イェルクロップ ーサ イエンス
	12 月 26 日	20538	イノーバフロアブル	フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル水和剤	デ ュボ ン
	12 月 26 日	20541	バ イェルイノーバ L フロアブル	タ イムロン・フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル 水和剤	バ イェルクロップ ーサ イエンス
	12 月 26 日	20542	イノーバ L フロアブル	タ イムロン・フェントラサ ミト ー・ヘンスルフロンメチル 水和剤	デ ュボ ン
	12 月 26 日	20552	ダ ブルスター顆粒	ヒ ーラゾ ースルフロンエチル・フェントラサ ミト ー水和 剤	日産化学
	12 月 26 日	20553	バ イェルダ ブルスター顆粒	ヒ ーラゾ ースルフロンエチル・フェントラサ ミト ー水和 剤	バ イェルクロップ ーサ イエンス
	12 月 03 日	21127	ライト ーウェイ E 粒剤	イソウロン・DBN・DCMU 粒剤	保土谷アグ ーロテ ック
	12 月 03 日	21128	ネコシキ ーエース A 粒剤	イソウロン・DBN・DCMU 粒剤	レインボ ー薬品
	12 月 03 日	21129	ロニー粒剤	イソウロン・DBN 粒剤	保土谷アグ ーロテ ック
殺そ 剤	12 月 03 日	21130	タッチダ ウン iQ	グ リホサートカリウム塩液剤	シンジ ーエンタシ ーヤ ハ ン
	12 月 17 日	21151	ハ ットフルエースシ ーョンホ ー	オキサシ ークロメホン・クロメフ ーロップ ー・ヒ ーリミノハ ック メチル・ヘンスルフロンメチル剤	クミアイ化学
殺そ 剤	12 月 14 日	6605	メリーネコタリウム	タリウム粒剤	大丸合成薬 品
誘引 ・誘 殺・ 交尾 阻害 剤	12 月 22 日	17152	スカシハ ーコン	チュリトルア剤	信越化学工 業
殺虫 剤	01 月 07 日	21178	テンネムシトール	テンフ ーン液剤	保土谷アグ ーロテ ック
殺菌 剤	01 月 19 日 01 月 28 日 01 月 28 日	17162 19973 20074	オキサシ ー水和剤 アミスターオリセ ーメート粒剤 側条オリセ ーメート粒剤	フェナリモル・有機銅水和剤 アゾ ーキシストロビ ーン・フ ーロハ ーナゾ ーール粒剤 フ ーロハ ーナゾ ーール粒剤	アグ ーロカネショウ MeijiSeika フ ァ ー ル マ MeijiSeika フ ァルマ

区分	失効年月日	登録No.	失効農薬名・商品名	種 類 名	登録メ-カ-
殺虫 殺菌 剤	01 月 28 日	21263	Dr. オリゼ [®] プ [®] リンス粒剤 10H	フィ [®] プ [®] ロニル・フ [®] ロヘ [®] ナゾ [®] ール粒剤	MeijiSeika フ アルマ
	01 月 28 日	22022	ビ [®] ルタ [®] ーフ [®] リンスアト [®] マイヤー粒 剤	イミタ [®] クロフ [®] リト [®] ・フィ [®] プ [®] ロニル・フ [®] ロヘ [®] ナゾ [®] ール 粒剤	MeijiSeika フ アルマ
	01 月 28 日	22026	フ [®] リンスオリゼ [®] メート嵐 5 粒剤	フィ [®] プ [®] ロニル・オリサストロビ [®] ン・フ [®] ロヘ [®] ナゾ [®] ール 粒剤	MeijiSeika フ アルマ
	01 月 28 日	22065	ビ [®] ルタ [®] ーフ [®] リンススタークル粒剤	ジ [®] ノテフラン・フィ [®] プ [®] ロニル・フ [®] ロヘ [®] ナゾ [®] ール粒 剤	MeijiSeika フ アルマ
	01 月 28 日	22218	Dr.オリゼ [®] プ [®] リンスエース粒剤	フィ [®] プ [®] ロニル・オリサストロビ [®] ン・フ [®] ロヘ [®] ナゾ [®] ール 粒剤	MeijiSeika フ アルマ
除草 剤	01 月 28 日	21204	タスマート	ト [®] レクスレモノセラス剤	三井化学アグ [®] ロ
	01 月 28 日	21211	ホ [®] ス 1 キロ粒剤	インタ [®] ノファン・ヒ [®] ラゾ [®] スルフロンエチル・ヘ [®] ンゾ [®] ビ [®] シクロン粒剤	日産化学
	01 月 28 日	21213	SDS ホ [®] ス 1 キロ粒剤	インタ [®] ノファン・ヒ [®] ラゾ [®] スルフロンエチル・ヘ [®] ンゾ [®] ビ [®] シクロン粒剤	エス・デ [®] イー・エ スハ [®] イオテック
	01 月 20 日	22574	K ワイト [®] ウェイ粒剤	イソウロン・DCBN・DCMU 粒剤	白元アース
	01 月 16 日	23188	クサフージ [®] キンク [®] 粒剤	シアナジン・ターバシル・DBN 粒剤	キンク [®] 園芸
肥料 農薬	01 月 25 日	18902	日産テマナックス	フ [®] ロジアミン複合肥料	日産化学